

令和6年度企画展
「幕末土佐の天才絵師 絵金」開催要項（案）

1 会期

令和6年11月30日（土）～令和7年1月13日（月・祝）（34日間）
休館日（月曜日、12/29～1/3）

2 会場

鳥取県立博物館 第1・第2展示室

3 趣旨

謎の天才絵師とも呼ばれる土佐の絵師・金蔵は、幕末から明治初期にかけて数多くの芝居絵屏風などを残し、「絵金さん」の愛称で、地元高知で長年親しまれてきました。同時代のどの絵師とも異なる画風で描かれた屏風絵は、今も変わらず夏祭りの数日間、高知各所の神社等で飾られ、闇の中に蝋燭の灯りで浮かび上がるおどろおどろしい芝居の場面は、見るものに鮮烈な印象を残しています。本展は、九州・中国地方エリアで開催する初の大規模展です。幕末の土佐に生き、異彩を放つ屏風絵・絵馬提灯などを残した「絵金」の類稀なる個性と、その魅力について、代表作の数々で紹介いたします。

4 展示構成（案）

第1章 芝居絵屏風

地元で長く守り続けられ、夏祭りの期間のみ、一部が公開されてきた芝居絵屏風。本展では、そのおどろおどろしく、圧倒的な迫力を持つ極彩色の屏風絵を一堂にご覧いただきます。

第2章 絵馬提灯、横幟、白描

圧倒的な迫力を持つ極彩色の芝居絵屏風以外にも、絵金は白描画、絵馬提灯、横幟などの作品も多数残しています。ユーモアにあふれる作品も多く、おどろおどろしさとは異なる絵金の魅力も紹介します。

第3章 闇の中の絵金の世界

絵金の屏風絵は、闇の中にあってこそ、独特の存在感と異様な雰囲気を醸し出します。展示会の会場でも、絵馬台の復元、照明などの演出によって地元で公開されている雰囲気を大胆に再現し、恐ろしくて美しい、その迫力と美を間近で楽しんでいただきます。

5 観覧料

一般800円（前売・20名様以上の団体）

※70歳以上の方、大学生以下の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方、難病患者の方、要介護者等及びその介護者は無料（要証明）

6 関連事業

(1) 美剣士・平井権八と鳥取県の伝統芸能Ⅰ「因幡の傘踊演舞」

令和6年11月30日（土） 午前10時～午前10時30分

会場：県立博物館エントランス階段

出演：国府町因幡の傘踊保存会 美敷支部

(2) 特別講演会 土佐の夏祭りを彩る「絵金」

令和6年11月30日(土) 午前11時～正午

会場：県立博物館講堂

講師：横田恵氏(創造広場「アクトランド」学芸員)

(3) 美剣士・平井権八と鳥取県の伝統芸能Ⅱ「円通寺人形芝居伝承見学ツアー」

令和7年1月11日(土) 午後1時～午後2時30分

会場：円通寺人形芝居伝承館(鳥取市円通寺) (現地集合・現地解散)

講師：西村一重氏(円通寺人形芝居保存会 会長)

※12月19日(木)から電話(0857-26-8044)にて申込受付

定員：20名程度